

# DIA2021 動的画像処理実利用化ワークショップ（講演題目をお書き下さい）

○平成太郎 †, ウィリアム・テイラー ‡

○ Taro HEISEI † and William TAYLOR ‡

† : 画像科学技術大学理工学部, taro@image.eng.u-pc.ac.jp

‡ : Soho Corporation, taylor@soho.com

<要約>これは、講演論文集用のフルレングス原稿（4～8 ページ）の様式です。

<キーワード>○○○, ○○○, ○○○, ○○○, ○○○（キーワードを 3～5 語お書き下さい）

## 1 原稿作成の手引き

### 1.1 原稿様式のダウンロード

DIA2021 の Web ページにアクセスし、様式（本 TeX ファイルのこと）をダウンロードしてください。

### 1.2 提出物とページ数

ご提出いただくのは、講演論文集用のフルレングス原稿（4～8 ページ）です。

### 1.3 PDF ファイルについて

PDF ファイルには、すべてのフォントを埋め込むようにしてください（Adobe Acrobat の場合、「高品質印刷」を選択）。フォントが埋め込まれていない場合には正しく印刷できない場合があります。

なお、PDF ファイルにセキュリティ制限を加えないでください。

提出期限は、2021 年 1 月 15 日（金）です！

表 1 原稿の長さ

講演論文集用フルレングス原稿	4～8 ページ（カラー可）
----------------	---------------

## 2 原稿の構成と体裁

### 2.1 用紙の設定

用紙は A4、余白は上 30mm、下 30mm、左 20mm、右 20mm で、4～8 ページで作成して下さい。

### 2.2 原稿の構成

原稿は、表題欄、著者欄、要約欄、本文欄、参考文献欄などから構成されています。

### 2.3 表題欄の体裁

表題欄は上から 30mm、1 段組でセンタリングとします。文字は 14 ポイント、改行は 21 ポイント、書体はゴシック体の太文字を使用してください。副題は、“-”（ハイフン）ではさむなど、適宜処理してください。

### 2.4 著者欄の体裁

著者欄は上から 50mm、1 段組でセンタリング。最初に著者名（+連名者）、次の行に所属をお書きください。文字は 12 ポイント、改行は 18 ポイント。表題欄との間隔は 10mm 程度にしてください。

### 2.5 要約欄の体裁

要約欄は 1 段組で均等配置とします。文字は 10 ポイント、改行は 15 ポイントです。先頭は全角 1 文字程度下げてください。著者欄との間隔が 10mm 程度となるように調整してください。

### 2.6 本文の体裁

本文は 2 段組で均等配置とします。章タイトルは字下げせず、1. 2. 3. …とし、文字は 12 ポイントとして下さい。節は 2.1, 2.2, 2.3…とし、段落開始時には 1 字下げてください。文字の大きさは 10 ポイント、改行幅は 15 ポイントです。文字数は全角 23 文字/行/カラムです。2 頁以降は 48 行/カラムです。

## 2.7 図・表, 写真の体裁

鮮明なものをご用意ください。また、図・表内の文字は小さくなりすぎないように注意してください。漢字の場合は8ポイントが限界です。



図 1 阿波踊り

## 3 原稿の提出

DIA2021 の Web ページの「原稿提出」のページに登録 ID とパスワードでアクセスして、作成した講演論文集用のフルレングス原稿をアップロードして下さい。アップロードするファイルはPDF形式で、5MB以下として下さい。

## 4 電子版講演論文集

DIA2021 はオンライン開催となるため、事前に発表用資料を提出いただき、電子版講演論文集とあわせて3月1日(月)に参加登録者向けへ Web 上で公開します。3月1日(月)が公知日となりますのでご注意ください。

## 5 お問い合わせ先

何か問題が生じた場合には、お手数ですが、以下の事務局にご相談下さい。

アドコム・メディア(株)内  
画像応用技術専門委員会事務局 「DIA2021」係  
〒169-0073 新宿区百人町 2-21-27  
TEL : 03-3367-0571  
e-mail: iaip@adcom-media.co.jp

## 参考文献

- [1] 寺田賢治: “動的画像処理”, 動的画像処理実利用化ワークショップ 2018 講演論文集, Vol.1, No23, pp.456-789 (2018)
- [2] 寺田賢治: “密集する不定形状な泡の計数”, 外観検査アルゴリズムコンテスト, Vol.9, No.8, pp.765-4321 (2015)